

第3章 社会教育の目指すべき姿

3-1 社会教育の将来像

今後10年間を見据えた、鷹栖町における社会教育の将来像を次のとおり定めます。

《目指すべき「子ども像」》

たかすで学び、たかすを愛した誇りを胸に、
自分の未来を力強く切り開く子どもたち。

ふるさと鷹栖で学び、体験し、活動したことが糧となり、目まぐるしく変化する現代社会に負けず、夢と希望にあふれた未来を力強く切り開いていける子どもたちの育みを目指します。

《目指すべき「おとな像」》

子どもたち“が”誇れるまちを、
子どもたち“に”誇れるまちを、作り上げるのは私たち。

子どもたちが誇れるまちをつくるのは、私たち大人の責任。大人たち自身もこのまちを愛し、胸を張って誇れるまちでなければ、子どもたちの明るい未来に夢と希望は与えられない。そのために、生涯にわたって学び、地域に生かし、伝え続けていく。そんな大人たちの育みも目指していきます。

3-2 5つのカテゴリにおける方針

多岐にわたる社会教育の分野において、大きく5つのカテゴリを定め、それぞれの目指すべき姿を示し、実現に向けて事業に取り組んでいくことで、事業の連動性、他部局との連携強化を明確にし、実現性の高い意義ある事業を進めていきます。

カテゴリⅠ．ふるさと共育

ふるさと鷹栖が「私たちにとっての世界の中心」

鷹栖に生まれた子どもたち。ふるさと鷹栖を好きになってもらいたい、いつまでも好きでいてもらいたい。先人たちが築きあげてきた、すばらしき鷹栖町の歴史を知り、感じ、心に深く刻んでもらえる取組を進めていきます。たとえ鷹栖を離れても、いつか戻ってくる日が来ることを、戻ることがなくても、ふるさと鷹栖の応援団の一員として支えてくれることを願う。そして、大人になって鷹栖の魅力に惹かれ移り住んだ人たちが、もっと鷹栖を好きになってくれるように。私たちにとっては、ここ『ふるさと鷹栖』が世界の中心であり続けてもらえるように。

子どもたちが『生きぬく力』を育み、明るい未来を切り開いていけるために。学校教育だけではなく、未来に必要な力を持った子育て支援に向けた新たなステージへ。

カテゴリⅡ．ライフステージに応じたアプローチ

多世代にわたる調和の実現「届けよう！笑顔と元気！」

子どもから高齢者まで、多種多様な考えをもった多世代が住む、私たちのまち鷹栖。すべての住民の『幸せづくり』に向けた社会教育の活動においては、それぞれのライフステージに応じたアプローチが必要。各世代のニーズに対応することはもちろん、世代を超えた社会教育の場を実現することで、新たな学び・気づきにつなげたい。

全世代にわたり、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠かせない「読書」。町図書館を中心とした横断的な読書コミュニティの構築に向け、学校や地域と一体となった活動の推進を。『読書カラ育てる、鷹栖の未来』の将来像の実現を目指して。

カテゴリⅢ．公民館

地域コミュニティを再構築「考えるのは“わがごと”の未来」

『十年一昔』。時代は常に変化し、町の様子、雰囲気、住民たちも、変わり続けている。5つの地区で、特色ある活動を展開し、交流し、地域コミュニティの核となってきた公民館。ライフスタイルが変わり、地域のつながり希薄化が懸念され、その存在意義が問われている今。過去にすぎた時ではない。他人事ではない。私たち、子どもたち、さらに未来の住民たちに向けた“わがごと”として、その未来を見つめ直す時。かけがえのない「人財」を生かし、いつでも、いつまでもつながる地域づくりを。

カテゴリⅣ．スポーツ・運動

身体の健康、心の健康「身体も心も美しく」

「自分の健康は自分で守る」と健康のまちづくりを進めてきた住民力が強みである鷹栖。町の強みである『健康』を改めて見つめ直し、身体だけではなく、心の健康も満たされる取り組みを住民に。その根幹は、日ごろの運動、仲間とのスポーツ、心地よい汗を流すことから。

「温故知新」。これまで取り組んできた事業の伝統と歴史を重んじつつ、令和の時代に新たなステップへ踏み出すとき。守るべきものと変えていくべきもの。先に見える、新たな可能性を探りながら。

カテゴリⅤ．文化芸術

心豊かに、知識豊かに「先人たちの築きを次世代へ」

多くの文化に精通する方々が築きあげた、鷹栖の文化。かたちとなった文化祭の歴史、数々の作品、そして目には見えない功績。次世代へと受け継いでいくこと、新たな時代に新たなかたちで生み出すこと。私たちが果たすべき役割を、今改めて考える。

鷹栖に住む私たちが出来ること、やるべきこと、私たちにしか出来ないこと。豊富な地域人材を生かし、未来へのさらなる発展を。